

頑張る 農業法人

京都市の北西端に位置する右京区嵯峨越畑で都市農村交流事業を展開する農事組合法人「越畑フレンドパーク」。

越畑と嵯原の2集落からなる岩陰地区の傾斜地には、美しい棚田が広がる一方で、厳しい農業・生活環境にあるため、若者の定住が課題になっていた。一人でも多く古里にとどまっていきたい。そのためには雇用の場が必要だ―と法人化し、市などの支援を受けて都市農村交流施設として、そば処「まつばら」を開店した。

同施設の経営を中心に、地元産のそばで「そば打ち体験」や体験農園などの交流事業を行う他、ブドウの直売にも取り組み、棚田の里に地域活性化の風を呼び込んで

いる。

□ □

同地区は標高約400㍍の地藏山の山腹にあり、眼下には「にほんの里100選」にも選ばれた約800枚の棚田が広がる。現在約50戸、150人が暮らし、うち26戸が耕作農家だが、以前から後継者不足が問題になっていた。

こうした危機感から雇用の場を作り、若者に残ってもらいたいと、1995年から農家の有志で法人の前身となる「越畑フレンドパーク実行組合」を立ち上げ、貸農園10㍍から交流事業を始めた。翌年にはブドウやリンゴの果樹園の他、同地区で以前は盛んだったソバ栽培に取り組んだ。当時のブームも手伝い、「自分たちが作ったそ

農事組合法 越畑フレンドパーク 京都市右京区



吉田代表理事(中央)とスタッフ

棚田の里に雇用の場

都市と農村の交流施設を運営

び、開店にこぎ着けた。市や府の広報をはじめ、マスコミや口コミで評判が広まり、休日には約150人が来店し、組合員9人とパートタイマー2人で業務に当たっている。借入金も昨年、返済することができた。

同施設では、「そば打ち体験」を行なう他、1区画25平方㍍の貸農園に取り組む。また、施設近くの棚田30㍍で栽培するブドウも好評で、直売所で完売する。

□ □

吉田代表理事は「法人を立ち上げて12年が過ぎ、組合員も高齢化がすすんできた。棚田を守るためにも、将来的には農作業受託が必要になるだろう。こうした課題を克服していくためにも、法人が若い人たちに働く場を提供し、地域活性化の核になることを目指したい」と語る。

▽法人の所在地 京都市右京区嵯峨越畑鍋浦109の1。▽電話 077-1(44)2700。

ばで店を出そう」という話を持ち上がり、市や府

の総額1億円(地元負担20%)の補助事業を活用して、拠点となる交流施設としてそば処「まつばら」の設置を決め、管理運営するため99年8月

に、18人の組合員で法人化した。現在の役員は代表理事の吉田達男さん(64)と理事2人、監事2人。資本金は200万円。

くの素人で経営できるのか、借り入れた地元負担金は返済できるのか。不安の中での出発だった」と吉田代表理事は当時を振り返る。

施設導入は一大決心だった。「悲願の働く場はできるが、そば打ちは全員9人がプロの技を学